

編集後記

▼「現代宗教研究」第五十三号をお届けします。

▼第五十一回中央教化研究会議では、数年前より注目されているマインドフルネスをその主題としました。ご存じの方もいるかと存じますが、その説明においてマインドフルネスは、「宗教色を抜いた手法」と紹介されています。しかし、その一方で仏教に起源を持つとの指摘をする専門家もいるのです。本年の中央教研は、このマインドフルネスについて、正しい理解をした上で、本宗の布教教化に活用出来るのかを考えるものとさせて頂きました。是非ご一読下さい。

▼研究ノートは、研究員各師の本年度の研究成果を収録しています。

▼第二十七回法華経・日蓮聖人・日蓮教団論セミナーでは、「公共空間において宗教者に求められるもの」と題し、東日本大震災以降注目されている、臨床宗教師・臨床仏教師の活動を取り上げ、その基本理念を学び、実際

の活動を報告して頂き、討議を行った模様を収録しました。皆様の活動の一助になればと存じます。

▼研究・調査プロジェクト報告は、平成三十年度に取り組んだ、①諸宗教と海外宗教、②現代教化学研究、③社会と宗教、④寺院と社会の四つのチームよりの報告を収録しました。①は法華系教団の現状について、②は葬儀に関する諸問題について、③は性的マイノリティについて、④は、会員制度についてそれぞれ取り纏めたものです。